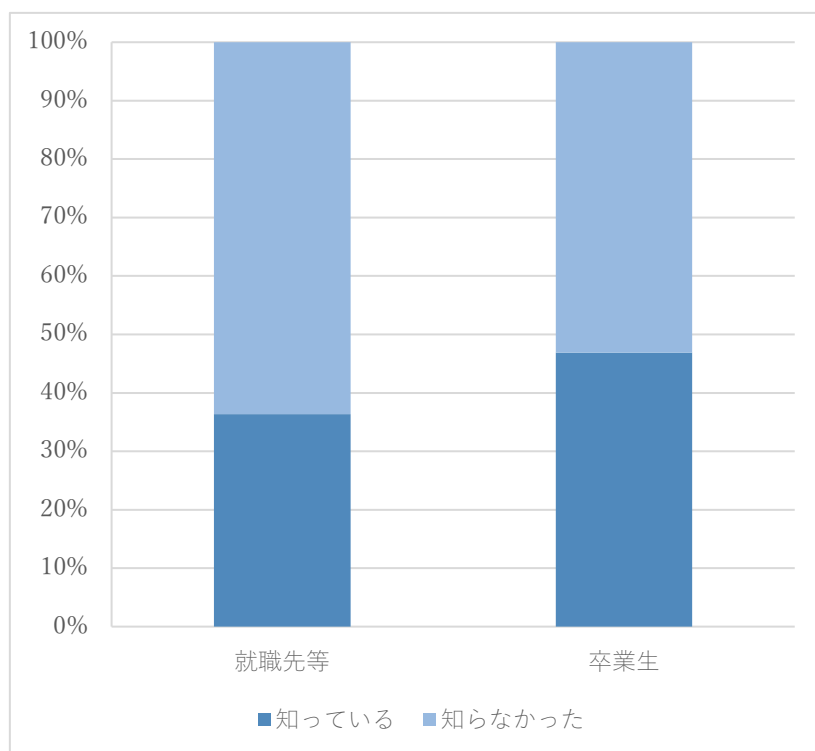


【報告資料】令和6年度卒業生アンケート集計結果

設問1. 本学では各学科のカリキュラム・ポリシーにおいて、キャリア教育に係る方針を設けておりますがこの内容についてご存知でしたでしょうか。

(注) キャリア教育とは、単位取得のある正課内の講義・実習を指しています。



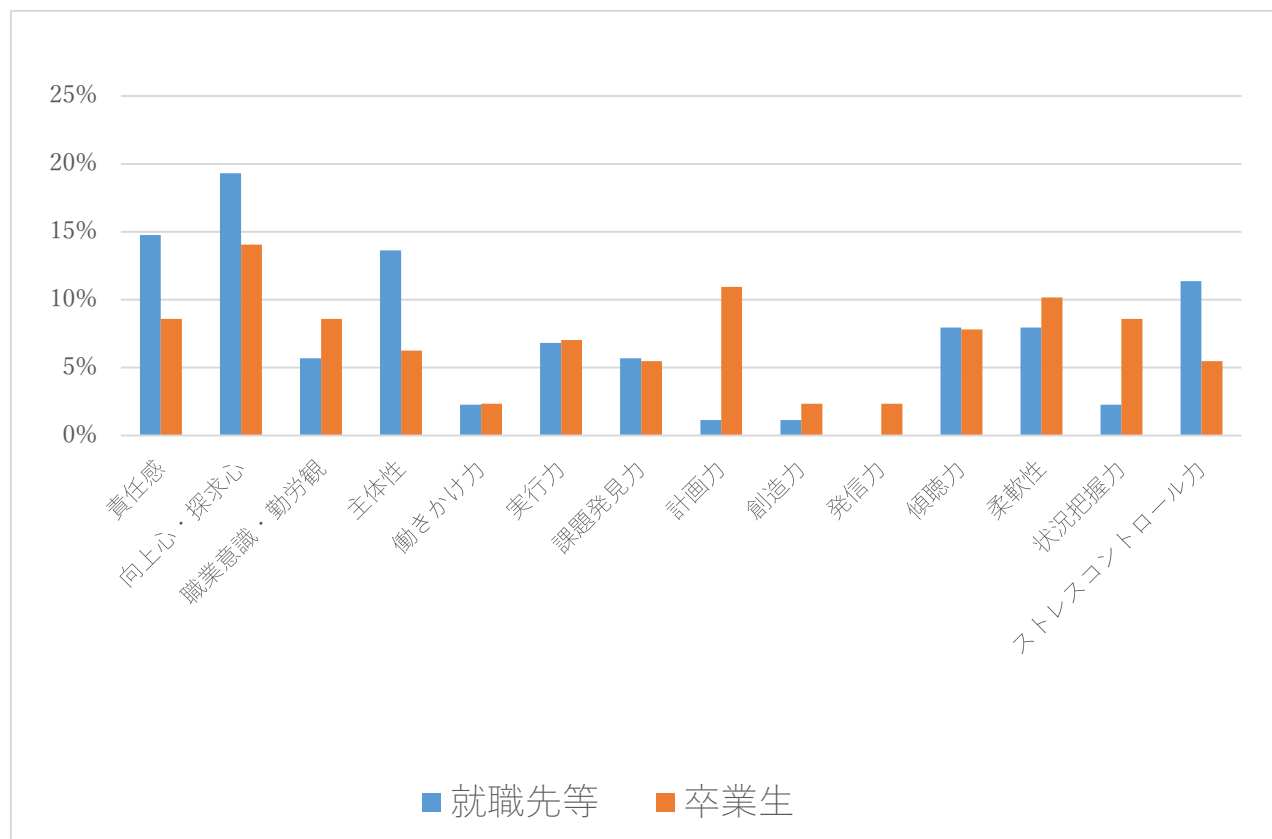
【考察】本学キャリア教育方針の認知度

各学科のカリキュラム・ポリシーに係る認知度を伺いました。前年度までは本学のカリキュラム・ポリシーの内のキャリア教育の方針が業務に役立っているかどうかを調査していましたが、「別業態へ就職したためわからない」といった回答が増えていたことから変更しました。

就業先は3割、卒業生は4割強の学生が本項目を知っていたと回答しており、正課内の実習科目で得た内容を就業先にも関連していることの多さがあるからか、本項目の理解度は双方で一定以上浸透していることがわかります。

設問 2.【就職先等】貴社に入社した本学卒業生に期待する能力として、最も当てはまるものを4つ選択してください

【卒業生】あなたが学生時代に身に着けた能力として、最も当てはまるものを4つ選択してください。

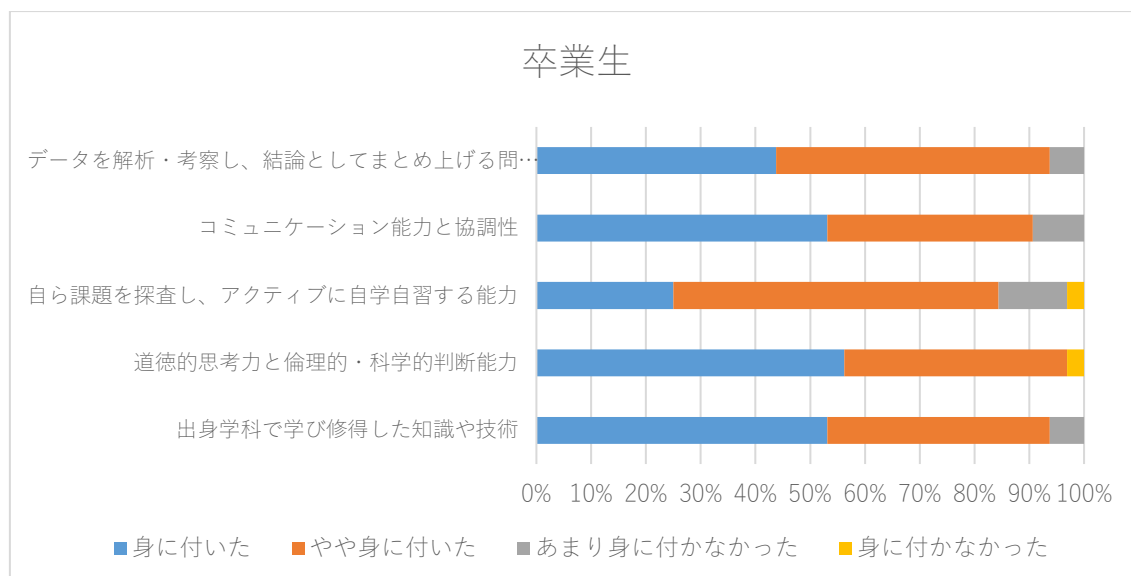
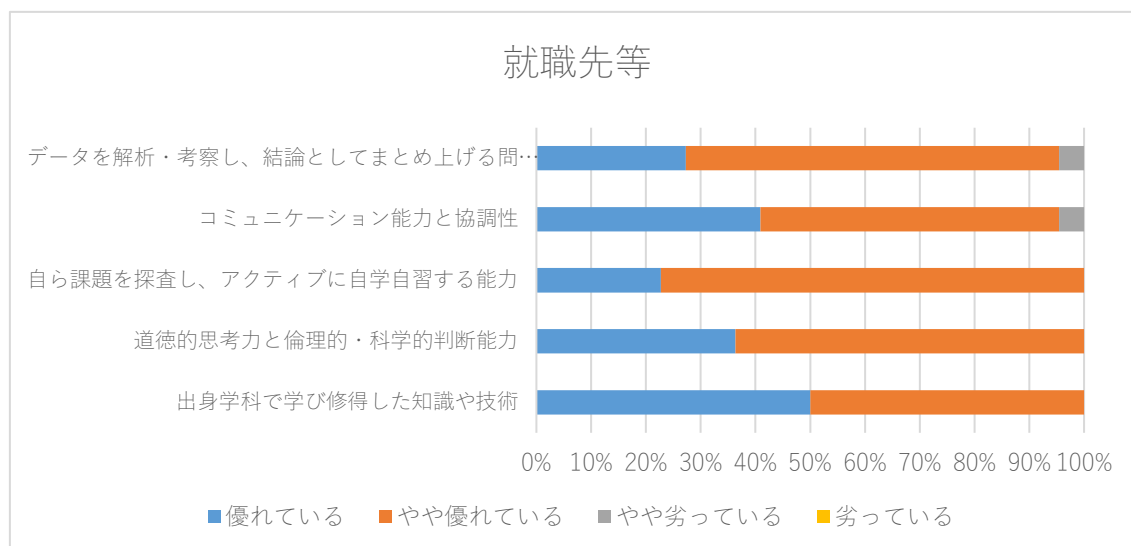


【考察】企業が求める能力と卒業生の自覚

就職先等は「主体性」「責任感」「向上心」を重視しており、社会で自律的かつ能動的に行動できる人材を求めています。一方で、「職業意識・勤労観」などの意識的側面にも高い期待を示しました。一方、卒業生は「計画力」や「柔軟性」を強みとして自覚している一方、「主体性」や「職業意識」の回答は比較的少ない結果となりました。

設問 3.【就職先等】 貴社に入社した本学卒業生の能力として、最も当てはまるものをそれぞれ選択してください。

【卒業生】 あなたが学生時代に身に着けた能力として、最も当てはまるものをそれぞれ選択してください。

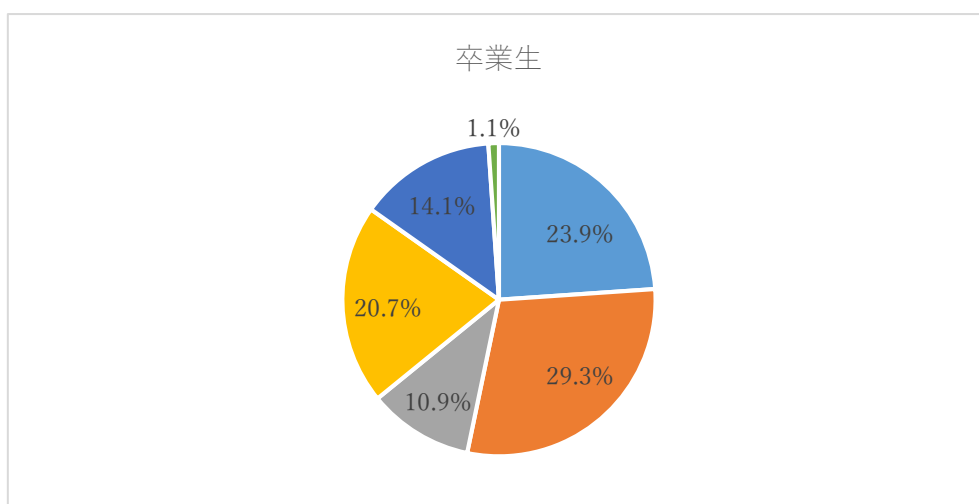
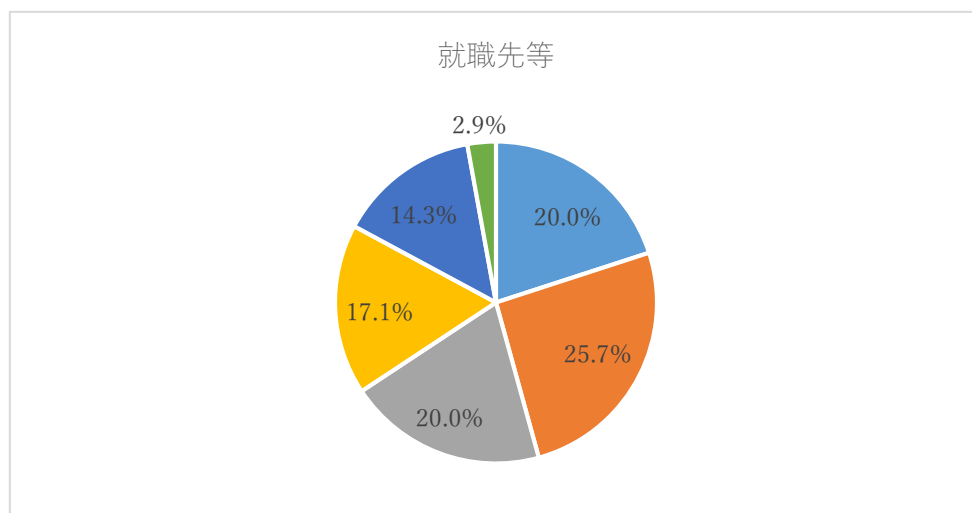


【考察】企業が求める能力と卒業生の自覚

前問と同様の質問ですが、こちらでは各要素の程度について問いました。「出身学科で学び修得した知識や技術」においての評価が最も高い結果となりました。いずれの項目でも比較的高い評価の回答が多かった一方、卒業生方における「自ら課題を探究し、アクティブに自学自習する能力」には若干ネガティブな回答が見受けられ、一部には左記能力に自信をつけられなかった者がいることがわかります。

設問 4. 【就職先等】 貴社から見て、本学学生が大学生の間に取り組むべきことはどのようなものですか。

【卒業生】 学生時代を振り返って、取り組んでよかったと思うのはどのようなものですか。

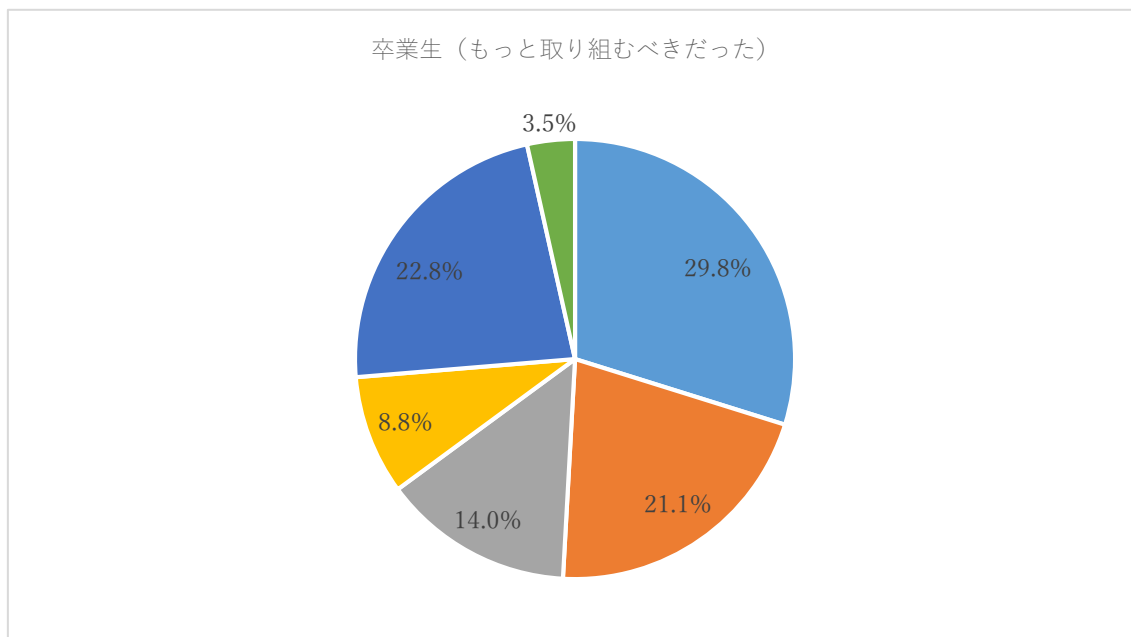


■ 学業(座学等) ■ 学業(実習) ■ 部活動・サークル活動 ■ アルバイト ■ インターンシップ、学外実習 ■ その他

【考察】 学生時代の取り組みについて

就職先等の回答では「学業（実習）」「インターンシップ・学外実習」での取り組みが高く評価され、理系大学としての専門的学びや実務経験が重視されています。「部活動・サークル活動」も一定の重要性を持っています。卒業生の回答でも「学業（座学等）」や「学業（実習）」に打ち込んだとの回答が多く、先方の求める経験が学生の取り組みと一致している部分があることが考察されます。

設問 5. 【卒業生のみ】 学生時代を振り返って、もっと取り組むべきだったことはどのようなものですか。



【考察】 卒業生がもっと取り組むべきだったこと

もっと取り組むべきだったと思う要素を卒業生に聴取したところ、こちらでも「学業（座学）」の回答が最も多い結果となりました。この選択肢を選んだ者の6割以上が前問（最も取り組んだこと）でも同選択肢を回答をしており、「最も取り組んだと思う一方、もっと学業に打ち込めたのではないか」と振り返る卒業生が一定数いた模様です。

本問で2番目に多かった回答は「インターンシップ・学外実習」が続いており、上記とは逆に、機会不足を卒業後に痛感している者もいることが示されています。

設問 6.その他、本学のキャリア教育・キャリア支援プログラムについてご意見があれば、下記の欄に自由にお書きください。

【就職先等】企業側に求めることがあれば、ご意見いただけますと幸いです。

例：OB/OG 訪問、不採用となった学生の不採用理由・アドバイス等

【卒業生】回答なし

【全体の考察】

本調査から、大学教育の成果は一定の評価を得ており、特に学業を通して得た専門性の高い経験は企業からの要望と一致しており、一方で、設問 2 における「主体性」や同 4 の「インターンシップ・学外実習」の回答から、自ら行動して得た経験が比較的少なかった可能性が浮き彫りになりました。

上記課題の改善のためには本学の実習にとどまらず、広く実践的な学びの機会を拡充すること、そのために学生が自らアクションを起こせるようなキャリア教育を通じた支援の必要を感じました。

以上